

---

デジタルパンク通信 第十話 2000年12月号

---

Q 生産でしょうか。編集でしょうか。

A 編集です。

ウチの町内はみな国籍が違い、アメリカ、イギリス、ドイツ、ポーランド、イスラエル、など。でもみなユダヤ人。そんな中、民族も違うのは、ウチと、数軒となりの台湾人一家。その一家、さーすが食通で、確かな舌を持ち、いい店を教えてくれる。

彼らがいなければ私はアメリカでうまいメシが食べなかったところだ。全くこの国は、無防備でいると、ドッキリカメラに違いないと思ってキョロキョロするほどまずいピザ食わしてくれたり、パスタにジャムみたいな塗って持ってきてくれたり、さすがエンタテイメント大国である。

このあいだ、うまい飲茶の最中、台湾の大将、「アイアン・シェフ見てるか」と聞く。知らない。教えてくれた時刻とチャンネルを合わせたら、「料理の鉄人」だった。日本語をそのままキッチリ翻訳している。フクイサーンとか言いつつ。食べ物や料理にかける気合いはアメリカ人に伝わるのだろうか。フランスやイタリアならわかるが。

食材はどこも同じようなものなのに、料理でこうも差がつくのは不思議だ。音や楽器には限りがあるのに、それをどう料理するかで、音楽のよしあしが無限に広がるのも不思議だ。作るというのは無限だと思う。

ネット時代、一つ一つのコンテンツが食材で、どう編集するかが料理なのかもしれない。みんなが情報の生産者、情報の発信者になる。コンテンツは無数になる。ホントにいいものとダメなものとの差が開く。その前に、あふれて、收拾がつかなくなる。

あなた好みの情報をアレンジしてお渡しすること。どう切ってどう選んでどうリンク張るか、ということ。たぶん編集能力の価値が、これからすごく上がる。アレンジャーやDJが偉い人になる。

この曲いいな、と思う。すると私は、私の世代は、それがどういうジャンルに属し、どういう系譜のどういうアーティストの、などと、全体の中での位置づけが気になる。全体を把握して、部分を押さえる。それはもう古い。それは、総覧することが可能だった時代の性癖だ。

あふれてるのが当たり前の世代は、あれこれ抱え込まない。ネットの世代は、それがスキ、それでおしまい。その部分、で満足。そしてそれが全体のどこかにリンク張ってあればオーケー。どんどん流れていく状況の上を泳いでいける資質。

抱え込み派とリンク派は、根本的に違う。たぶん街中をヘッドフォンで歩いている自分に違和感を感じないかどうか、あたりで分けられると思う。規範がなくていい世代かどうか、と言えるかもしれない。これからのことは、そういうあなた方に、任せる。

---